

ハンドブック作成

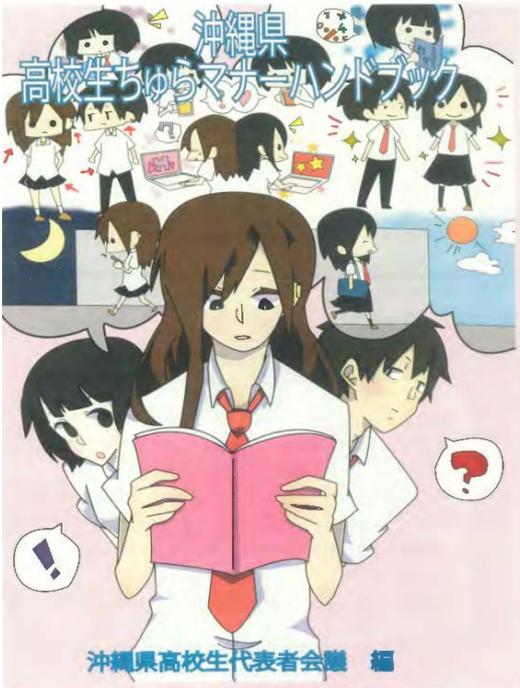
都道府県	沖縄県	学校名等	沖縄県内57高等学校の生徒代表者
名称	全県高等学校生徒代表者会議（高校生ちゅらマナーハンドブックの作成）		
目標(狙い)	各高等学校の生徒代表が一堂に会し、「規範意識」等について率直な意見を交換することとおして、「自分の意見を持つことの大切さ」、「自分の意見を伝えることの大切さ」、「自分以外の意見を理解することの大切さ」等を考え、将来の社会を担う高校生として「自主的・主体的」に行動し、有意義な高校生活が送れるようにする。		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>【概要】</p> <p>目標を達成するために、各テーマについて討議し、全学校で共通に取り組む内容についてまとめ、全員で宣言する。</p> <p>具体的には、代表者会議に向けて、事前に各学校でテーマについて、討議し意見をまとめ、大会当日は、討議テーマについて、班別に討議を行った。その後、全体会として、班別討議の発表、全体意見等の取りまとめを行い、全員で宣言する。</p> <p>また、当会議の討議内容は、高校生ちゅらマナーハンドブック(※1)に反映される。</p> <p>平成26年度の討議テーマは次のとおり。</p> <p>討議テーマ1「ちゅらマナーハンドブックの活用法」</p> <p>討議テーマ2「自校の抱える問題」(※2)</p> <p>討議テーマ3「深夜はいかい防止に向けた取組について」</p> <p>※1：沖縄県の全高校生をはじめとした若者の規範意識の高揚に向けて、高校生が自ら作成したマナーアップのためのハンドブック。</p> <p>※2：平成26年度の会議では、このテーマに「携帯電話のマナー」が議題として上がっている。</p> <p>【期日】</p> <p>平成26年7月11日(金) 13:00～17:00</p> <p>【参加者】</p> <p>県内57校 140名</p> <p>(沖縄県の全県立高等学校 60校の内3校は学校行事等と重なり不参加)</p> <p>【結果】</p> <p>高校生を取り巻く様々な課題について、高校生が主体となって討議をする等、規範意識の高揚が図られている。また、討議結果について、「高校生ちゅらマナーハンドブック」を作成し、県内の全高校へ配布している。</p> <p>配布されたハンドブックは、各学校で活用され、次の代表者会議へ意見反映されることになる。(マナーアップサイクル構想)</p> <p>【参考】</p> <p>高等学校代表者会議に係るサイト</p> <p>http://www.pref.okinawa.jp/edu/kenritsu/jujitsu/gakuse/handbook.html</p>			

写真・図表等

【全体会議でのまとめ】



【ちゅらマナーハンドブック】



解説

携帯

「NO」校内使用「YES」モラル
「マナーとモラルで使用しよう」

Q: どうして学校で使用しちやいけないの?

A 携帯電話は授業に必要でしょうか?

着信音や通知が授業妨害にまっしてまいますし、
周りの集中も途切れさせてまいます。

学校では電源を切り、学校のことに集中ましよう!!

23ページの携帯電話のフィルタリングについてもご覧ください。



チャート問題結果! 携帯編

あなたの出来度は

A → Perfect.Beautiful.so good!

B → もう頼いい感じだけど、
もう少し!

C → 親指で電源ボタンを
押しましよう。

D → ルールを守る練習と思っ
てとらえまらず切っましよう。

都道府県	愛知県	学校名等	金城学院高等学校
名称	中高生のための「ケータイ・スマホハンドブック」手引書を出版		
目標(狙い)	ケータイの長所と短所、使う際のエチケットなどのテーマで作成した冊子を広く他校でも活用してもらう目的で出版。		
(具体的な取組等の内容)			
<p>【概要】</p> <p>このハンドブックは、平成20年3月に金城学院中学校で「反いじめ憲章」宣言がなされたことが発端で、ネットいじめに関心を持つ高校生約40人が10グループに分かれて愛知県警察本部などを訪問して学習を開始し、平成21年3月に、ケータイの長所と短所、使う際のエチケットなどをテーマとして、冊子にまとめ、初版が完成しました。</p> <p>その後、毎年、高校生の有志が集まり、メールが来たらずぐ返信しなければと「即レス」してしまう問題や、世界のケータイ事情などを調べ、毎年改訂し、平成25年からは「スマホ作法」を追加した手引書を作りました。</p> <p>手引書の見直しにあたって再度愛知県警察本部を訪問したり、保護者・教師を交えた座談会を開催するなど、大人の意見も参考にしています。</p> <p>ケータイやスマホを考える輪は、高校生だけではなく中学生にも広げていきました。毎年新入生にこの手引書を配布し、先輩によるガイダンスを実施しています。</p> <p>また、保護者も、手引書をもとに学習会を開きました。</p> <p>このような動きがテレビや新聞などで紹介されたのを機に、各地の学校関係者から「手引書がほしい。」という問い合わせが相次ぎ、平成25年9月に出版することとなりました。</p> <p>■高校生のつくった「ケータイ使用についての5カ条」</p> <p>その一、使用場所と使用時間を決めるべし。</p> <p>その二、会員登録を勝手にするべからず。</p> <p>その三、自分のケータイの料金明細を確認すべし。</p> <p>その四、個人情報は大切に取り扱うべし。</p> <p>その五、家庭でのだんらんを大切にすべし。</p> <p>今までに延べ約100名の生徒が作成に関わってきました。今後も現状に合わせて毎年手引書の見直しを行っていきます。</p>			

【実施時期・項目】

平成 20 年 3 月 : 中学校で「反いじめ憲章」宣言

平成 21 年 3 月 : 高校生の有志約 40 人で最初の手引書を作成。

平成 22 年～24 年 : 有志によりメール「即レス」問題や世界のケータイ事情などを調べ手引書を改訂

平成 25 年～ : 手引書に「スマホ作法」を追加

中学生にもスマホ作法などを説明、保護者も学習会を開催

平成 25 年 9 月 : 中高生のための「ケータイ・スマホハンドブック」を出版

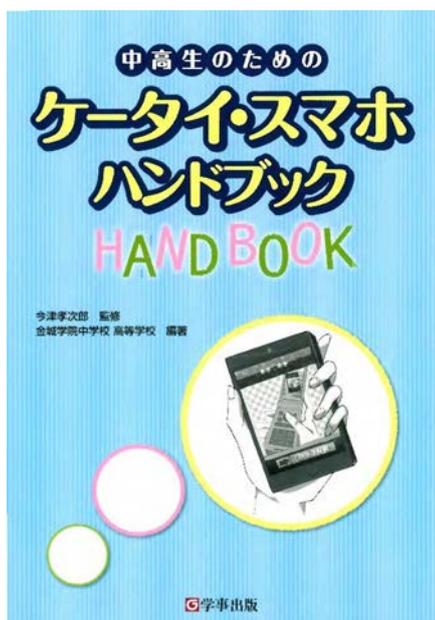
【結果】

スマホ等メディアの状況がどんどん変わっていること、高校生の関心の高いテーマであることが重なり、手引書の改訂を行ってきました。その結果、高校生たちは大人が規制するよりも、自分を見つめて行動するようになりました。

生徒たちは当初、携帯電話（スマートフォン）は学校内の生活に必要と考えていましたが、今回の自発的な学習により学校内の生活では携帯電話は必要ではないと、生徒たちの考えが変わってきました。

また、保護者に対して、「ケータイ、スマホの問題は私たちが学校、家庭、地域で他者とどう関わるかに深く関係している。」と訴えてきました。

今後、他校でもこのようなハンドブックの作成が期待されます。



【出版された
「ケータイ・スマホハンドブック」】



【毎年改正される校内用
「ケータイ・スマホハンドブック」
(出版されていません。)



【生徒による検討会】



【制作した有志生徒】



【PTA学習会】



【PTA学習会】